

小杉山円満寺 令和四年夏まつり号

寺だより

新庄市五日町五九一四

TEL 二一〇四三三三

Fax 三三三〇一六六

発行人：山尾瑛紀

いかがでしょうか

花手水

山門を入ると左手に手や口を清める手水舎があります。

六月末、アジサイが咲いたので、手水鉢に浮かべてみました。バラの花も一緒に。

青と紫のグラデーシヨンの手まりが集まって、涼しげな風情です。そして、明るいピンクも混ざって、華やかさもプラス。七月いっぱいアジサイを浮かべてみようと思います。(寺庭)



大聖歓喜天夏まつり

昔より、お参りすると、「花開く」といわれている歓喜天夏まつりです。



華水供まつり

歓喜天さまの初縁日の供養は「浴油供」という修法で執り行いますが、夏まつりの供養の修法は「華水供」といいます。

華水とは、清らかな水のことです。その水を歓喜天さまにお供えします。当寺では、その華水に花を浮かべてお供えします。

そして、一心に真言と経を唱え、私たちの願いを届けます。

不動明王半跏座像 戻る

五月二十六日に、約十ヶ月ぶりに

修復を終えて戻ってきました。体のいたるところが剥落したり、欠損したりしていましたが、きれいにクリーニングし、補修していただきました。本堂の右手に安座していただきますので、どうぞお参り下さい。

【修復師のこぼれ話】

修復の際に用いる接着剤は「にかわ」。にかわで接着した部分をお湯で温めると、にかわが溶けて外すことができます。二百年後かもしれない次の修復の際に、素材を傷めることなく分解できるようにするためです。

化学合成の接着剤は溶かすことができないので、部位を外そうとすると傷めてしまうとのことでした。

お盆って？



八月の聲が近づいてきました。今回は、お盆についてお話しします。

お盆は、お釈迦様の

弟子である目連尊者

が、餓鬼道という苦

しい世界に堕ちてし

まった亡き母を、雨

期に行う厳しい修行の最終日(七月十五日)に、修行者たちをもてなした功德によつて救つた、という『仏説盂蘭盆經』のお話が元になっています。



お盆はサンスクリット語で「ウラボン」と言います。漢字を当てると「盂蘭盆」となります。

お盆の期間は八月十三日から十六日まで(関東などでは、七月に行う地域も)が多く、亡き人やご先祖さまの精霊をお家が家にお迎えして供養し、家族と亡き人がともに過ごします。

この期間は、私たち家族のつながりや他者を思いやる気持ちを育んでくれる大切な時間です。ともすれば忘れがちになる、ご先祖さまから連なる歴史の積み重ねの上に今日の自分があるという「いのちのつながり」に気づく時でもあります。

また、四十九日忌(場合によっては三十五日忌)の法事が済んで初めて迎えるお盆のことを「新盆」(にいぼん・しんぼん・あらぼん)などと呼びます。

日本ではおよそ千四百年前の奈良時代から行われ、江戸時代になると各家で「精霊棚」を作り、お先祖さまの霊をお迎えしてお祀りするようになりました。

|| 今日の法語 || 「和」

どんなに仲のいい人でも、一緒にいれば嫌なところの一つや二つ見えてくるものです。ましてや、職場や学校などは、仲がいい人ばかりが集まるとも限りません。いろいろな気の合わない部分も出てくるのではないのでしょうか。

それでも、協力しても物事を行うためには、団結が不可欠です。団結は最初からそこにあるものではなく、お互いの努力で作りに上げていくもの、これがまさしく「和」ということなのです。

「和」とは、なごみであり、親しみであり、穏やかさであり、助け合う

ことであり、他人を思いやることです。

— 本山智積院季刊誌より —

境内スポット

境内の真ん中に大きな植木鉢。こんもりとピンクの花が咲き誇っています。栗田園芸様から奉納されました。

しばらくすると、花の色があせてきて、しかも花の数が少なくなってきたではありませんか。

液体肥料をやってみては・・・というアドバイスを受けて、早速やってみました。間もなく、花の色が濃くなり、花の数も密集するほどになりました。



開山四百年記念

二〇二四年・

令和六年

